



躍動する山梨学院の「今」を伝えます  
YAMANASHI GAKUIN NEWS FILE  
[アルファ]

**HEAD LINE**  
**TOPICS** 学術・文化・行事  
スポーツ  
**DIGEST** 学術・文化・行事  
スポーツ

**C2C**  
Global Education

- 山梨学院大学
- 山梨学院短期大学
- 山梨学院高等学校
- 山梨学院中学校
- 山梨学院小学校
- 山梨学院幼稚園



山梨学院  
ニュース  
ファイル



広報  
Facebook



広報  
Instagram

発行  
学校法人 C2C Global Education Japan  
法人本部総務部総務課  
甲府市酒折 2-4-5  
TEL.055-224-1450 FAX.055-224-1388



# 高校野球部の活躍

## 夏の甲子園 初の準決勝進出、国スポ・関東大会 優勝 センバツ 準々決勝で1点に泣く



8月5日「第107回全国高等学校野球選手権大会」が開幕。山学高は12日の2回戦で聖光学院高と対戦し、6対2で勝利。16日の3回戦で岡山学芸館高と戦った。山学高の先発菟田陽生投手が好投し、全員安打で14対0と岡山学芸館高に圧勝。19日には準々決勝が行われ、京都国際高と対戦した。試合は、初回に先制されるも二回裏、横山悠選手の本塁打を足がかりに、この回5点を挙げ逆転。中盤にも得点を重ね、11対4で勝利し、初の準決勝進出を決めた。大会第14日目の21日、準決勝では沖縄尚学高と激突。試合は中盤まで山学高優位に進んだが、これまでの積みかける打線が影を潜め、4対5で試合終了。初の決勝進出はならなかった。

9月30日、「第79回国民スポーツ大会(わたSHIGA輝く国スポ)」高校野球(硬式の部)準決勝で山学高は県立岐阜商業高と対戦し10対4で勝利。10月2日の決勝では高川学園高を3対1で破り、見事初優勝に輝いた。

10月26日、第78回秋季関東地区高校野球大会最終日、決勝に進出した山学高は花咲徳栄高と頂上対決。試合は、先発した榎垣瑠輝斗投手が持ち前のストライク先行の投球術で、強打の花咲徳栄打線を2ラン一本に抑えた。打撃陣は6打数5安打の菟田選手を筆頭にこの大会一番の猛攻。花咲徳栄高の3投手を次々に撃破。守備に不安材料をのぞかせたものの、14対5の大差で3年ぶり3回目の優勝を手にした。

3月22日「第98回選抜高等学校野球大会」1回戦で、山学高は長崎日大高と対戦。5対3で勝利して初戦を突破した。26日の2回戦では大垣日大高と対戦し、3対1で勝ち、2年ぶりベスト8に進出。翌27日、準々決勝では専大松戸高と戦った。山学高の先発は前日に続き渡部瑛太投手。初回に1点を失ったものの、その後は立ち直り七回までスコアボードに0を並べたが、八回に勝ち越しを許し1対2と惜敗。準決勝進出はかなわなかった。



### 新学生食堂棟新築オープン 開放感あふれる新学食棟、大勢の学生で賑わう

9月8日、キャンパスに新学生食堂棟「TURQUOISE BLUE(ターコイズブルー)」がオープン。これまでの学生食堂の座席数不足の解消と、さらに学生に快適な居場所を提供しようと、食だけでなくコミュニケーションと学びの場としてリニューアルした。オープン当日も1階、2階のフロア約800席が埋まる盛況ぶり。学生たちは「広々としてきれい」「これぞ学食」「窓が大きくて開放感がある」「メニューにも期待ができる」など高評価。1階には本場・中国の常州料理を提供する中華食堂「尝味坊(シヨウミボウ)」を新設。利用した留学生は「国で食べる料理と変

わらない、とてもおいしい」と満足気に笑顔を見せた。2階にはスポーツ選手を食事面からサポートできるよう「アスリート食堂」としての機能を持たせた。座席は2名席、ソファ席、円卓席、カウンター席、テラス席などバリエーション豊か。イベント時には周辺の座席を組み合わせ自由に配置しイベントスペースを設けることもできる。学生センター職員は「食事だけでなく、様々な用途で使えるスペースがたくさんあるので、ぜひ活用してほしい」と語った。ランチ終了後は、学生ラウンジとして利用できる。



### ホッケー女子 大学王座とインカレの2冠に輝く 王座9年ぶり7回目の優勝、 インカレ6年ぶり10回目の優勝

7月13日、第44回全日本大学ホッケー王座決定戦決勝戦が行われ、山学大は立命館大と対戦した。試合は、前半を0対0で折り返し、第3Q開始5分、PS(ペナルティストローク)を獲得すると、齋藤はなみ選手が先制。終盤にも、早助咲那選手がシュートを決め2対0。第4Q、1点返されるも澤口莉奈選手が追加点を挙げ、3対1で9年ぶりの優勝を飾った。

11月3日には第74回男子・第47回女子全日本学生ホッケー選手権大会(インカレ)決勝戦が行われ、7月の王座戦同様、山学大は立命館大と対戦。試合は、第1Q中盤、矢壁乃音選手が決めて山学大が先制。第2Qにも齋藤選手がシュートを決め、2対0とリード。しかし第3Q前半、相手にPC(ペナルティコーナー)からの得点を許し2対1。第4Q中盤、山学大がPCを得ると藤原千佳選手が決勝点を奪い、3対1で6年ぶり10回目のインカレ賜盃を手にした。





## 「学生チャレンジ制度」認定団体決定 大学3件、短期大学4件の企画が採択

「学生チャレンジ制度」は、学生のやる気やチャレンジ精神を経済面などで全学的に支援する制度で、1995年にスタートし2025年度で31回目となる。

6月25日、大学の「学生チャレンジ制度」2次審査および認定書授与式が行われた。今回はビジネス枠、社会貢献枠をテーマに企画を募集。28件の応募の中から12団体が2次審査に進み、企画内容や今後の展望などのプレゼンを行った。厳正な審査の結果、展覧会（芸術）を通して学生の文化を発信する「ダイバシ

ティ展覧会」など3件が認定された。

7月3日には短期大学の「学生チャレンジ制度」認定書授与式が行われた。応募企画の中から独自性・ユニーク度・実現可能度などに加え、短期大学ならではの幼児教育や食、健康など地元・山梨に密着し、さらに地域・社会に還元できることを重視した審査が行われた。その結果、「大人ごはんと一緒に作る離乳食！—取り分けスキルを覚えたら、離乳食づくりはらくちん、です！—」など4件の企画が認定され、それぞれに認定書が手渡された。

## 大学と浙江工商大学が 学術交流協議書を締結 教育・研究分野での交流・協力を推進

6月9日、大学の青山貴子学長と国際共同研究センター劉星副センター長らが中国杭州市の浙江工商大学を訪問した。午前、青山学長は同大学顧青副学長と会談し、商学、経営学、法学、外国語教育などの教育・研究分野において、両大学のさらなる協力を進めるために学術交流協議書に調印。午後には、青山学長が同大学東洋言語哲学学院の学部生を対象に「日本の大学の現状と改革について」をテーマに講演した。



## FIRST LEGO League世界大会出場へ 創部8年、中学レゴロボット部2チームが快挙

中学校のレゴロボット部の2チームが世界最大級のロボット競技会「FIRST LEGO League (FLL) Challenge 2025-2026 全国大会（2月、東京国際交流館）」に出場し、2チームとも世界大会の出場権を獲得した。創部8年目にして手にした快挙だ。

チームの1つ山梨学院-漆-TAKERUSは総合7位に入賞し2026年7月にシドニーで行われる世界大会に出場する。また山梨学院-伍-SHINGENもロボット競技で全国4位、総合10位となり2026年8月に中国で行われる世界大会出場が決まった。



## 小学校で「起業プランコンクール」 アントレプレナー教育の一環で開催

起業家に必要な資質や能力を育てる「アントレプレナーシップ教育」を実践している小学校で10月29日、5年生による「起業プランコンクール」が開催された。正解を覚える力ではなく、自分で課題を見つけ、創造的に解決する力を育む教育として、小学校では全国的にも早い段階の2006年から実践している。今年度は、5年生の大きな学びとして「アントレプロジェクト」を9月に始動し、2か月間の研究成果を発表する形で保護者を招いて行った。午前

9時からの予選会を突破した8チームが最終審査会に進み、それぞれがiPadで作成したプレゼン動画を大型プロジェクターの大画面で発表。県内外で活躍している企業経営者や実業家が子どもたちの柔軟な発想とプレゼン能力を審査した。1位には、もったいないをテーマに規格外野菜を取り入れることで、食品ロスを減らすとともに、低コストで食事を提供するレストランの経営計画を発表した「Body Kind Restaurant」チームが選ばれた。

## 孔子学院が国際シンポジウム開催 学術交流と国際的な人材育成に寄与

11月8日、山梨学院大学孔子学院国際シンポジウム「外国語教育と異文化理解・交流の促進——深化と発展を目指して」が大学で行われた。このシンポジウムは、日中両国の研究者・教育者が一堂に会し、言語教育に伴う異文化の理解と交流に関する研究成果および実践事例を共有するとともに、新たな視点や協力の可能性について議論することを通じて、両国における教育・研究の新たな連携の基盤を築き、持続的な学術交流と国際的な人材育成に寄与することを趣旨として開催。国内外で活躍する外国語教育の専門家を招き、会場での対面開催に加えオンラインでも配信され、日本国内および中国から50名を超える専門家、研究者、外国語教育関係者が参加した。



## 短期大学生が工夫を凝らしたパンを開発 県産小麦と県産食材を活用

山梨小麦プロジェクト「山梨県産食材を使ったパンレシピコンテスト」が8月28日、短期大学で行われた。県産小麦「かいほのか」と県産食材を組み合わせたパンの商品開発を課題に、学生たちは午前中からパン作りを始めた。審査は県パン協同組合より3名の審査員が担当。1グループ約10分の持ち時間内で学生によるプレゼンと審査員との質疑応答が行われた。その結果、参加5チームの中から短期大学食物栄養科2年の橘田美音さん、深澤あやのさん、細川侑南さんのチームが考案した吉田のうどんに使われる辛味調味料「すりだね」を使った「すりだね香るカレーパン」が県パン協同組合理事長賞を受賞し、表彰状が贈られた。



## アルテア七夕まつり2025 酒折夏の風物詩は今年も大盛況

7月4日、山梨学院の恒例行事「第22回アルテア七夕まつり2025」が、大学生から生徒・児童・園児、教職員や地域住民まで約1,500人を対象に開催された。会場には約30のキッチンカーや飲食ブースのほか、ステージ周辺に金魚すくいや射的等の縁日コーナーが並んだ。ステージではアイドルグループによるパフォーマンス、教員・学生サークルによる演奏などが披露され、フィナーレの20時まで会場は大いに盛り上がった。



## 幼稚園が県から表彰 伝統野菜「長禅寺菜」の食育活動が評価

幼稚園は甲府市の伝統野菜「長禅寺菜」の食育活動が評価され、県の「やまなし食の安全・食育優良活動表彰」を受賞。9月8日、田村優子園長に表彰状が贈られた。幼稚園は山梨学院クッキングハウスとして幼稚園と小学校に給食を提供。長禅寺菜の栽培から収穫、食事まで一貫した食育を展開してきた。この活動は3年目で、園児達は栽培農家とPR活動にも取り組んだ。



## カルチャーフェスティバル 「糸」をテーマに個性豊かな探究・表現活動

小学校は11月15日、同校でカルチャーフェスティバルを開催。保護者や地域の人々など1,000人を超す来場者で賑わった。今年は「糸」をテーマに児童が11のチームに分かれ手芸、ダンス、廃材造形、スタンドグラス、アニメ制作、世界のスポーツなどで個性豊かな探究・表現活動を披露した。

## 三大学間国際交流会議を開催 厦門大学、厦門大学嘉庚学院を迎えて

11月13日、中国の厦門大学マレーシア分校、厦門大学嘉庚学院、山学大による三大学間国際交流会議を開催。山学大で開催された会議には、厦門大学マレーシア分校・厦門大学嘉庚学院から王瑞芳学長、洪永強副学長ら6名の訪問団が来学。山学大からは青山貴子学長、太郎良留美経営学部長・大学院社会科学部研究科長らが出席した。青山学長の歓迎の挨拶に続き、王学長が同二大学の教育理念と特色を紹介し、三大学間における教育・研究交流、学生交流の可能性などについて意見交換が行われた。



## 国際学術シンポジウム開催 国際関係の発展過程を振り返り未来を展望

9月27日、国際学術シンポジウム「戦後80周年の回顧と未来の社会変化への展望」が大学で開催された。大学の青山貴子学長の開会の挨拶の後、シンポジウム開催に先立ち北京大学国際戦略研究院院長の于鉄軍教授が「戦後国際秩序の回顧と思考」と題する基調講演を行った。于教授は、戦後の国際秩序の形成と発展を回顧・総括し、中国の今後の国際秩序に対する考え方を「グローバルガバナンス・イニシアチブと新時代の中国の国際秩序観」として詳しく解説した。シンポジウムは2部構成で行われ、第1部は「戦後80年における日米中3か国関係の歩みと課題」、第2部では「持続可能な繁栄の実現に向けて」をテーマにそれぞれ3名ずつの研究者が報告を行い、終了後には総合討論が行われて活発な議論が展開された。



## 山梨県ケーキショー2025 短期大学から計8名が各賞を受賞

6月21日・22日、第15回「山梨県ケーキショー」が開催された。県内洋菓子店のパティシエの作品に加え、県内の製菓学校に通う学生対象のジュニア部門に、短期大学食物栄養科パティシエコース2年生18名の創作ケーキが出品され、技術を競った。22日には表彰式が行われ、ジュニア部門2位・技術指導員長賞に佐々木鈴華さん、ジュニア部門3位のジュニア金賞には岩田南穂さん、4位のジュニア銀賞に中澤悠圭さんが続くなど、短期大学から計8名が表彰された。

## 高校で中国文化講座開催 同世代のパフォーマンスを堪能

5月12日、山梨学院大学孔子学院の中国文化講座が高校の体育館で開かれた。蘭州大学学生芸術団の19人が来校し、中国の舞踊、歌唱、器楽、武術などの伝統芸能を披露。プログラムは、優美な民族舞踊、迫力ある洗練された中国武術、古くからの楽器として知られる二胡の調べ、女性10人によるダンスメドレーなど進み、フィナーレの出演者全員による歌唱と舞のパフォーマンスに生徒たちは手拍子でリズムを刻み、最後まで楽しんだ。





## 全国高校ラグビー大会

シード校撃破ならずも、後半の3トライは必ず来年につながる

12月27日、第105回全国高校ラグビー大会が大阪・花園ラグビー場で開幕。前回大会に続き、3年連続での出場となった山学高は28日に初戦を迎え、明和県央高と対戦。15点差をひっくり返して36対20で逆転勝利し、昨年に続き初戦を突破した。続く2回戦は12月30日、シード校の東海大相模高と対戦した。山学高は前半開始2分、シンビン(一時退場)で1人少ない中、相手に独走を許しトライを献上。8分には原澤汰門選手が自陣から抜け出し独走、敵陣深く攻め込んだが惜しくもトライにはつながらなかった。11分にはラインアウトからテンポよく左へ展開し、ト

ライエリアまで5mと迫ったが、相手ディフェンスのタックルに阻まれた。逆に、体格で上回る東海大相模高に2つのトライを奪われ、0対19で前半を折り返す。後半5分、原澤選手が相手のパスをインターセプト、そのまま持ち込んでこの試合初めてのトライを決めた。23分にもラックから出たボールをつなぎ、相手ディフェンスをかわして再び原澤選手がトライ。終了間際の29分には敵陣5mからの素早いリスタートに反応し、熊谷永遠選手がトライを挙げて意地を見せたが19対66でノーサイド。2年連続でシード校の厚い壁に阻まれ、ベスト16入りはかなわなかった。

## 高校サッカー部の戦績

インターハイPK戦で敗れる、選手権1点及ばず

7月31日、2025年度全国高校総合体育大会サッカー競技大会(インターハイ)の準々決勝が行われ、山学高は強豪の神村学園高と対戦した。試合は序盤、山学高が積極的に攻め上がり、31分にオノポフランシス日華選手が決めて先制、前半を1対0で折り返す。後半は相手の対応に苦戦し、12分には同点に追いつかれる。その後は両チームともチャンスを作るも決めきれず、1対1で後半終了、勝負はPK戦へ移る。山学高1人目のシュートは相手ゴールキーパーにキャッチされ、対する神村学園高は着実にPKを成功させる。最終的に2対4で山学高が敗れ、準決勝進出はならなかった。

12月31日には、第104回全国高校サッカー選手権大会2回戦で山学高は尚志高と対戦した。試合は前半2点を奪われる苦しい展開。後半に山学高が猛反撃を開始。前からプレッシャーをかけ、35分に足田将選手が後方からのクロスボールに反応して体を反転させ、左足を振り抜きゴールネットに突き刺し1対2。その後も山学高はひたすらゴールへ、ゴールへと攻め上がったが、あと1点奪えず試合終了。5大会ぶりの3回戦進出はならず、ピッチの上で正月を迎えることはできなかった。



## 高校バスケットボール部の戦績

インターハイ初陣敗退、ウインターカップ初出場初勝利も追い上げ及ばず2回戦で敗れる

2025年度全国高校総合体育大会バスケットボール競技大会(インターハイ)が開幕、7月27日に1回戦が行われ本大会初出場の山学高は中部大学第一高と対戦した。試合は第1Q開始早々、中部大一高がゴール下から得点、さらに3P(シュート)でリード。山学高も桂川遼太郎選手が持ち込み初得点。その後は相手が次々に得点し、5対26と大差をつけられる。第2Q、山学高が攻勢を見せ、一時は6点差まで詰め寄り30対42。第3Q、立ち上がりは山学高が先行するも互いに得点を重ね46対58。疲れが見える第4Q、お互い力を振り絞り一進一退が続いたが、最後は相手の3Pが決まり62対75。山学高は初戦で敗退した。

12月23日、第78回全国高校バスケットボール選手権大会(ウインターカップ2025)に初出場した山学高は、同じく初出場の帝京第五高に95対70で見事に初勝利を果たした。25日に行われた2回戦では正智深谷高と対決。第1Q、山学高が先制し22対15とリード。しかし第2Q、一気に逆転されて突き放され34対45。第3Qになっても悪い流れは変わらず、14点の大差を付けられ最終4Qに入った。山学高は全員の力を結集させて懸命に追いつき2点差まで詰め寄ったが、残り12秒で3Pを決められ万事休す。力の限りを尽くした追い上げ及ばず82対87で試合終了のブザーが鳴った。



写真提供(全国大会):オールスポーツコミュニティ

## 全国高校駅伝

男女とも昨年の順位を押し上げる

12月21日、各都道府県代表に地区代表11校を加えた58校が出場する、男子第76回・女子第37回全国高等学校駅伝競走大会が冷たい雨の降る京都・都大路を舞台に繰り広げられた。女子はハーフマラソンの距離を5人でつなぐレース。1区の坂元唯花主将が37位で2区にタスキをつなぎ、3区、4区が順位を押し上げる好走。圧巻だったのはアンカーに起用された1年生の大崎美希選手が6人抜きの快走で、昨年の41位から大幅に順位を上げ28位でゴールした。一方、男子はフルマラソンの距離を7人で走るレース。2区のフェリックス・ムティアニ選手が16人抜きの2年連続区間新の走りで、男子も昨年の44位から順位を上げて35位でゴール。学校から応援団・吹奏楽部・チアリーダー・生徒会委員が応援に駆けつけ、スタジアムで、あるいは沿道で、雨と底冷えする寒さに震えながら師走の古都を疾走する選手へ懸命に声援を送り続けた。



## 全日本大学女子サッカー選手権 燃えて攻めて大学日本一を奪還

1月6日、第34回全日本大学女子サッカー選手権(インカレ)決勝が東京・味の素フィールド西が丘で行われた。山学大は、2年前にこの地で初の大学日本一を獲得し、昨年は決勝で日体大に敗れて2連覇を逃した。選手たちは優勝旗奪還を目標に、この1年間ひたすら厳しい練習に取り組み、技とチームプレーを高めてきた。決勝の相手はその日体大。山学大イレブンにはリベンジを果たすため、西が丘の決勝ピッチに立った。試合は前半27分、加島希夏選手がゴール前に詰めて体を投げ出し倒れ込みながら先制ゴールを決める。31分にはオウンゴールで同点

に追いつかれたが、その直後香椎彩選手がニアサイドに絶妙なボールを上げ、マークを外してゴール前に走り込んだ寺村穂香選手がヘッドで合わせて勝ち越した。後半24分には伊藤琴音選手が右足を振り抜き鮮やかにミドルシュートを決めて突き放すと、33分には1点差に詰め寄せられたが、最後まで日体大に走り勝ち3対2で試合終了。山学大はリベンジを果たし大学日本一を勝ち取った。選手たちは奪還した優勝旗と優勝カップを手に、バックスタンドで大声援を送り続けてくれた仲間たちのもとに走った。



## 全日本大学レスリング 選手権大会 2年連続8回目の優勝

第51回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会が11月8日・9日に行われた。個人の成績ポイントによる大学対抗戦で、山学大は8選手がエントリー。1日目を終え4人が決勝に進出。4人は敗退したが2日目の敗者復活戦に回り、4人全員が勝ち上がり3位となりポイントを獲得。続いて決勝戦が行われ、57kg級勝目大翔選手、61kg級須田宝選手、70kg級富山悠真選手が優勝。125kg級ソヴィット・アビレイ選手が2位となり総得点69点で2年連続の優勝に輝いた。



## 東日本学生レスリングリーグ戦 全勝で2連覇達成

5月28日、大学対抗団体戦2025年度「東日本学生レスリングリーグ戦」1部リーグ順位決定戦および1部リーグFinalステージ準決勝、決勝が行われ、山学大が全勝優勝で2連覇を飾った。山学大は予選リーグ1日目を3戦全勝。続く2日目も2勝し、5戦全てに勝利した。28日最終日には1部Finalステージ準決勝に進出し、前回大会3位の日大と対戦。6対1で勝ち、4年連続の日体大との優勝決定戦に進み5対2で勝利。大会を通じて7勝0敗で全勝優勝を飾った。



## 関東大学テニスリーグ 女子入替戦 全員が同じ目標に向かい1年で1部復帰

2025年度第61回関東大学テニスリーグ戦女子1部・2部の入替戦が9月27日に行われた。昨年1部の称号を失い、1年での復帰をめざしてきた山学大(2部1位)は慶應義塾大(1部6位)と対戦した。はじめにダブルス2試合が行われ、冨樫りさ子選手・辻さくら選手ペアが勝利し1対1。その後シングルス5組の試合があり、中川原凜選手、辻選手、上田愛梨選手が勝利。2試合は途中打ち切りとなったが山学大が4対1で勝利。1年で1部復帰を果たした。

## 日本学生氷上競技選手権(ST競技) 総合力で男女ともに2位

第98回日本学生氷上競技選手権大会ショートトラックスピードスケート競技が10月18日・19日に行われた。この大会は、インカレのショートトラック(ST)部門として行われ、山学大からは男子6人、女子5人がエントリー。ST部門では、個人競技の成績を得点化し、学校対抗戦としても争われる。初日は男子1500mで越智大翔選手が2位、女子1500mで宮下心夢選手が2位とそれぞれ表彰台に上り、学校対抗得点に貢献。最終日は男子5000mリレーが3位、女子3000mリレーが2位となるなど、得点を積み重ねた。優勝者こそ出なかったものの、層の厚さや高い総合力で、男女ともに学校対抗2位となった。ST部門の結果は、インカレの総合成績に加算され、氷上競技大学日本一に向け、大きな弾みとなった。



## 関東大学バスケットボールリーグ 男子入替戦 層の厚さを生かし1部復帰を果たす

第101回関東大学バスケットボールリーグ戦が行われ、13連勝を含む19勝3敗の成績で2部優勝を勝ち取った山学大は、1部復帰をかけて11月4日・5日の入替戦(2戦先取)に臨んだ。相手は専修大(1部12位)。各試合、山学大は前半から得点を重ね、有利な展開で後半戦へ持ち込んだ。後半も手を緩めることなく、層の厚さを生かし多くの選手が躍動。1戦目84対72、2戦目90対72で2戦連続の勝利を収め、見事1部復帰を果たした。



## 市の課題解決策を議会で提言

2月6日、大学法学部法学科の学生が甲府市議会の議場で、甲府市が抱えている問題の解決策を提案した。法学部と甲府市議会が連携して行ったもので、法学部片田興ゼミらの学生が3グループに分かれ、若者の立場から1年間かけて調査・研究した成果をもとに「高齢者支援に関する提言」「外国人居住者との共生のありかた」など、3つの政策を提言。それぞれの提言ごとに学生と市議の間で質疑応答が行われた。

長禅寺菜を栽培し採種  
幼稚園児が普及キャンペーン

地元の伝統野菜「長禅寺菜」を守ろうと、農家と協力して本学短期大学生や幼稚園児が活動している。幼稚園では、初代「長禅寺菜守り隊」からバトンを渡された「2代目守り隊」の園児が春と秋の2回、園の畑で長禅寺菜を栽培し、種を採取した。12月17日の普及キャンペーンには2代目守り隊の園児56人が参加。長禅寺菜をアピールしたり、採取した種を配って「作っててください」と呼びかけた。



## 小学校スポーツフェスティバル

小学校は5月31日、大学の古屋記念堂でスポーツフェスティバルを開催した。今回のテーマは「EXPO 2025～次の時代に挑め～」。児童たちは課題探究型プログラムとして、新しいオリジナル競技などを創作する「スポーツプロジェクト」に2週間取り組んだ。オープニング、全校体操、各競技、巨大壁画にポスター、アナウンス、映像表現、エンディングなど、児童たちが2週間かけて作り上げたものが1つになり、その成果が最終日に「スポーツフェスティバル」として披露された。

## 孔子学院の中国文化講座

山梨学院大学孔子学院では、年3回「中国文化講座」を開講。6月28日、7月6日に続き、11月29日の第3弾は「『中国Z世代』とは何者か？—変わりゆく価値観と新しいカルチャー—」をテーマに、日中の懸け橋として女優・モデル・MCなど多岐にわたって活躍している段文凝（だんぶんぎょう）氏が登壇。講演では中国Z世代の特徴や中国Z世代と日本Z世代の相違点について解説。中国Z世代で流行しているアプリや人気サイトについても実例を挙げて紹介し、来場者からは興味深いとの声が聞かれた。



## 秋田学長代理がコンボ名誉領事に就任

大学学長代理の秋田辰巳教授が在山梨コンボ共和国名誉領事に就任し、併せて秋田教授の研究室が在山梨コンボ共和国名誉領事館として開設され、5月19日に名誉領事の就任式および名誉領事館の開設式が行われた。大学とコンボ共和国との交流は2019年から始まり、その後もスポーツや教育、文化面で交流を深めている。

## 全学的国際化を推進するための認定制度「グローバル・エキスパート認定」

2024年度、2025年度の「グローバル・エキスパート認定」表彰式が大学でそれぞれ行われた。22～24年度入学生は、対象となる活動（正課科目・正課外活動・イベント等3分野）に参加してポイントを獲得、累積80ポイント以上が認定の対象。一方、25年度入学生は3分野全てで基準ポイントを満たした上で計80ポイント以上が認定の対象となる。6月11日に行われた24年度表彰式では初の最高賞エキスパート（500ポイント）認定者2人を含む述べ78人に、また3月12日に行われた25年度表彰式では新ルール適用の1年生から3人のGOLD（120ポイント）認定者が誕生し、認定証と報奨金が贈られた。



## 小学校合唱団、Nコン県大会で2年連続金賞

小学校合唱団は8月8日、東京エレクトロン 韮崎文化ホールで行われた第92回NHK全国学校音楽コンクール山梨県大会に出場、小学校の部で金賞を受賞した。金賞は昨年に続き2年連続。NHK全国学校音楽コンクール（Nコン）は小学校、中学校、高校を対象とした日本有数の合唱コンクール。団員たちは取り組んできた課題曲の「あおい天使」と自由曲の「鮎の歌」を披露、息の合ったハーモニーで会場を魅了した。県代表として9月14日に行われた関東甲信越ブロック大会（さいたまソニックシティ）に進み、同大会では奨励賞を受賞した。

## ドリームケーキプロジェクト

子どもたちが「こんなケーキがあったらいいな」と絵に描いたケーキを、短期大学食物栄養科パティシエコースの1年生たちが本物のケーキに仕上げる「ドリームケーキプロジェクト」が12月6日に行われた。短期大学と山梨中央銀行が連携して取り組む本プロジェクトは今年で14年目。625点の絵の中から賞を獲得した3つの絵のケーキを学生たちが制作し、子どもたちを招いて贈呈式を行った。子どもたちは自分の絵が本物のケーキになったことに驚き、弾けるような笑顔を見せた。



## 探究ユニット（秋のダイナミックワールド）

幼稚園では10月中旬から11月中旬の保育を「ダイナミックワールド」として、遊びを通じて園児の探究心を育てている。自由遊びの時間やクラス活動の時間を活用し、園児とともに遊びを深めてきた。国際パカロア（IB-PYP）の探究ユニットとしても行われ、各学年でPYPのCentral idea（テーマ）を設定。園児は世界の遊びを楽しんだりオリジナルゲームを自分たちで考案し、遊びの中で課題発見や問題解決方法の学びを深めた。

中学校オータムプロジェクト  
クリエイティブ活動を通じ、考え行動する姿勢学ぶ

中学校の全校生徒が劇、影絵、身体表現、動画、製作、実験、MC研究の7チームに分かれ9月12日から2週間、学年を超えた創作活動を行った。活動の成果は同月27日の輝学祭でステージ発表や展示として披露した。今年度、動画チームは動画編集講座を取り入れ撮影・編集を基本から学習。ショート動画制作というクリエイティブな活動を通じ、自ら考え行動する姿勢を学んだ。



## 「孔子学院の日」記念 中国美術作品展

大学の学園祭とも重なる10月25日～27日、2025年度「孔子学院の日」記念イベント「『敦煌霓裳（とんこうげいしょう）』 甘肅画院美術作品展」が開催された。シルクロードが通ること知られる中国甘肅省にある「甘肅画院」との共催により、敦煌芸術とシルクロード文化に焦点を当てた甘肅画院の20名の画家・書家等による中国画、水彩画、書道作品が展示された。初日には中国画実演や水墨画の体験講座もあり、期間中500名を超える来場者は珠玉の作品を鑑賞した。

大学留学生在スピーチコンテストで  
優秀な成績収める

12月6日に「第22回やまなし留学生スピーチコンテスト」が行われた。大学からは5名の留学生が参加し、1位、2位をはじめ全員が各賞を受賞。県内の留学生13名が参加し「つらめきたい自分らしさ」をテーマに、約5分の日本語のスピーチで自らの経験や考えを述べた。



## 短期大学で専門的実践力外部試験

短期大学食物栄養科パティシエコース2年生が制作したオリジナルスイーツを外部の専門家が審査する「専門的実践力外部試験」が2月10日に行われた。午前中に3時間の制限時間内で素材・味・デザインに工夫を凝らした作品を制作。午後からは一人一人が仕上げた作品のプレゼンを行い、見た目・味・食べやすさ・商品価値について、実践力がどれだけ身についているかを製菓・製パン分野の専門家が審査した。





**全日本学生レスリング選手権**

文部科学大臣杯2025年度全日本学生レスリング選手権大会（インカレ）が8月21日～24日に行われ、山学大からは、フリースタイルに20人、グレコローマンスタイルに4人、女子フリースタイルに3人がエントリーした。熱戦が繰り広げられた4日間の結果は、男子86kg級五十嵐文彌選手が2連覇を達成し、男子92kg級増田大将選手が初優勝を飾った。準優勝（グレコ・フリー）は5人で、五十嵐選手には敢闘賞が贈られた。

**天皇杯全日本サッカー選手権大会**

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会1回戦が5月25日に行われ、山学大 PEGASUSはヴィアティン三重と対戦した。試合は、前半を0対0で折り返す。後半72分、相手のロングスローからの混戦で一瞬の隙をつかれ失点。試合はそのまま0対1で終了となり、2年ぶりの初戦突破はならなかった。



**関東高校女子ソフトボール大会**

第75回関東高校女子ソフトボール大会準決勝、決勝が6月2日に行われ、準決勝で健大高崎高を破った山学高は、決勝で厚木王子高と対戦した。試合は、初回裏に2点を先取された山学高は2回表に1点を返すも3回に1点を追加され、1対3で試合終了。山学高は2年連続準優勝となった。

**加藤選手J3高知入団へ**

大学サッカー部男子の加藤佑太郎選手がJ3高知ユナイテッドSCへの入団が決まり、11月27日、入団内定会見が行われた。身長190cmの長身を生かし、守備の要のセンターバックとしてチームを牽引してきた加藤選手は「勝利に貢献して高知ユナイテッドSCの顔といわれるような愛される選手になりたい」と語った。



**山梨県高校総体 男子3年連続総合優勝**

5月9日、3日間にわたって行われた第77回山梨県高等学校総合体育大会が閉幕。学校対抗得点で男子は3年連続5回目の優勝を果たした。女子は2年連続準優勝となった。優勝に貢献したのは、男子では硬式野球、陸上、バドミントンなど。女子はテニス、ソフトボール、陸上などで、特に陸上競技では4×400mリレーで男女W優勝を飾るなど、大きな得点を獲得した。



**女子サッカー3選手がプロに**

大学サッカー部女子から3人の「WEリーグ」加入が内定し、1月9日に合同記者会見が行われた。主将の大高心選手がちふれASエルフェン埼玉、寺村穂香選手がサンフレッチェ広島レジーナ、高橋千空選手がAC長野パルセイロ・レディースにそれぞれ入団する。3人は「一日でも早くチームの戦力になりたい」と抱負を述べた。



**第2体育館完成記念こけら落とし対外試合**

4月12日、第2体育館（大学、高校バスケットボール部専用体育館）の完成を記念して、こけら落としの高校、大学の対外試合が開催された。高校は愛知の桜丘高と対戦。大学は日体大と対戦した。結果は、高校58対66、大学80対86と記念すべき「こけら落とし」での勝利はならなかった。

**箱根駅伝総合17位 シードならず**

1月3日の第102回箱根駅伝復路、山学大はトップから9分20秒遅れで芦ノ湖をスタート。初めて箱根を走る南葉聖暉選手が6区の山下りを担い懸命に走った。7区は大杉亮太郎選手、8区は松岡一星選手、9区には和田瑛登選手を投入。アンカー10区の田原匠真選手も箱根を走るのは初めてで、1秒を削る走りで大手町に向かった。最終総合成績は17位となったが、復路の5人はいずれも下級生。今後を担う5人は心と心をつないでタスキをつないだ。



**全日本学生柔道優勝大会**

6月29日、2025年度全日本学生柔道優勝大会2日目が行われ、山学大は4回戦で早稲田大と対戦した。1勝1敗の同点で代表戦に持ち込まれたが、代表ルター・エンボルド選手が一本勝ちで勝利。ベスト8が決定し、明治大を相手に準々決勝を戦ったが0勝3敗で敗れ、ベスト4には届かなかった。

**全国高等学校選抜ホッケー大会**

第57回全国高等学校選抜ホッケー大会が12月20日に開幕。山学高は1回戦、清水国際高と対戦した。試合は第3Qに先制されたが、直後に中澤海慈選手が自ら放ったシュートのリバウンドを押し込み同点。その後再び勝ち越されるも、第4Q、PC（ペナルティコーナー）から中澤選手が決めて同点に。そのまま2対2でSO（シュートアウト）戦に突入。一進一退の攻防を繰り返したが2対3で敗れた。



**日本学生氷上競技選手権大会 スピードスケート競技**

1月5日～7日、第98回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）のスピードスケート競技が行われた。10月のショートトラック（ST）競技の結果と合わせて争われる学校対抗戦。初日は男女500m、1500mなどの競技が行われ、女子1500mで飯田明音選手が1位、2日目にも女子3000mで1位となり2冠を達成。ST部門を含むスピード部門で男子5位、女子2位となった。



**U20世界選手権 内田選手準優勝**

2025年U20世界選手権が8月17日～19日、ブルガリア・サモコフで行われ、大学レスリング部の内田怜児選手がフリースタイル65kg級で準優勝に輝いた。初めての国際大会出場だったが、自身の強みである攻めの姿勢を貫き、世界の強豪相手にトーナメントを勝ち進んだ。



**男子全日本学生ホッケー選手権大会**

11月3日、第74回男子全日本学生ホッケー選手権大会3位決定戦で山学大は朝日大と対戦した。第1Q、山学大が先制。その後も多彩な攻撃で朝日大ゴールを脅かした。第3Qには相手サークル内の混戦からシュートを決め2対0とリード。第4Q終了間際、追加点を入れ、3対0で朝日大に勝利し、3位となった。



**関東女子サッカーリーグ1部・2部W優勝**

第31回関東女子サッカーリーグが開催され、1部にはトップチームの「山梨学院大学」が、2部にはセカンドチーム「山梨学院レッドサンダーズ」が出場した。トップチームは1部参入初年度での優勝を決め、セカンドチームも最後まで優勝争いを繰り広げ、見事2部優勝&1部昇格を果たした。

**大学陸上競技部（長距離）がサンリオとスポンサー契約**

陸上競技部と株式会社サンリオがスポンサー契約を結び、10月9日に記者発表会を行った。選手が着用するユニフォームの胸にサンリオのロゴが入るロゴスポンサー契約。ハローキティのリボンに込められた「なかよしのしるし」という意味が、駅伝のたすきと重なることが契約の背景の一つとなり、今回の契約に至った。



© 2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. CB260617 著作(株)サンリオ

**大学ラグビー部が2社とスポンサー契約**

大学ラグビー部と株式会社はくばく、株式会社横浜トクソーとの間でスポンサー契約が結ばれ、2月27日に契約発表記者会見を行った。選手が着用するユニフォームの胸と背中に2社の社名が入るスポンサー契約。2025年4月からラグビー部と一般企業とのスポンサー契約が解禁され、つながりの深い2社から支援の申し出があり実現した。

